

# 偉大な勝利の地を切りひらいた 11.9決起



83. 11. 22  
No. 1499

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五六・（公衆）〇四七二二七二〇七

この力を更にみかき、強化して、  
「59.2ダイ改阻止」「三里塚3.25決起」へびく進めよう

動労千葉が全支部執行部・組合員の総力を傾けて決起した「11・9レーガン来日阻止・中曽根内閣打倒」の闘争は、わが動労千葉の闘いの歴史上においても画期をなす数段の飛躍をかちとると共に、八〇年代中期の日本の階級闘争の高揚にむけた重大な勝利の突破口をきりひらきました。

今日、レバノン・グレナダ・ニカラグアにおけるレーガンの侵略戦争へのめりこみ、また田中問題・国会情勢に示されている中曽根体制のゆきづまりと危機のなかで、この世界最凶悪の戦争屋レーガンと中曽根は、より一層の凶暴な侵略戦争と人民抑圧の反動政治につき進もうとしています。

このときにあたり、日本労働者階級・農民・人民の責務にかけて全力決起した三里塚を闘う勢力、とりわけ二七〇名の隊列で決起した動労千葉の堂々たる決起は、極めて偉大な地平をきりひらいたといえます。

この「11・9決起」のきりひらいた偉大な歴史的教訓をしつかりとうちかためることこそが、直面する「59・2ダイ改」合理化攻撃を断り、来春三里塚二期着工阻止「3・25総力決起」を実現していく決定的なカギであることを確認し、大胆に前進していこうではありませんか。

## 日本労働者の階級的責務にかけて決起

「11・9決起」の勝利の教訓の第一は、レーガン・中曽根の侵略戦争政策に真向から対決し、日本労働者階級の責任を果たし切ったという最も重要な点にあります。

この決起は、全世界の闘う労働者・人民の共同闘争として闘いぬかれ、レバノン・グレナダ・ヨーロッパ・アジア等々の巨大な闘いと連帯したものととして大きな共感を生みだしました。

同時に、それは、反動・中曽根内閣を頂点とする国家権力超敵戒体制を打ち破つての決起、すなわち全国から集めたのべ九万名の機動隊の壁で、レーガンをとるかこみ、移動はすべてヘリコプターを利用せざるを得ない状況等、これら中曽根内閣の危機的状況を内外にあげたことによりあります。

## 「三里塚・国鉄」基軸論の路線的勝利

第二に、この勝利をもたらした最大の要因は、「三里塚・国鉄を基軸に、日帝中曽根をうち倒す」という、わが動労千葉の基本路線の正しさと勝利性にあるといえます。

社会党をはじめとする、日本の労働運動が闘わない現実のなかにあつて、「第二の81・3闘争」の質をもって唯一決起し、労働者としての階級的闘いは「こうである」という方向性を指し示したことであります。それは、日本の反戦・反核の闘いを拡大・発展させ、反動・中曽根内閣を打倒

きる闘いは、三里塚闘争＝三里塚勢力にあることをさし示し、全国の心ある労働者・人民に限りない勇気を与え、衝撃となつて波及し、同時にレーガン来日をテコとした、軍事大国化＝改憲、戦争への反動的突出、いわゆる「戦後政治の総決算」を強行する中曽根内閣の思惑を粉碎しました。

## 年休闘争で 二七〇名の政治闘争動員を実現

第三に、青年部も年輩者も全力の年休闘争を貫徹しての「平日、二七〇名の決起」をもって羽田現地に登場した動労千葉の決起は、全国の労働者とりわけ国鉄労働者に、「こう闘うべし」として衝撃と確信を与え、活性化を生み出し、「59・2ダイ改」を頂点とする国鉄労働運動破壊攻撃に決して総決起する展望を示したことです。

## 腐り切った動労「本部」革マル一掃へ

最後に、こうした歴史的闘いの最中、動労「本部」革マルは、レーガン阻止などさらさらなく、なんと、「昇給協定改悪案」を当局に卒先して協力し妥結するという断じて許せない裏切りに行ったことを、弾劾せねばなりません。政府・自民党・右翼の反ソ宣伝に完全に迎合し、レーガン歓迎であり、しかも国鉄当局と一体となつて戦闘的国鉄労働運動の破壊のみにうごめく彼ら。今や全労働者・人民の怒りと憎しみの的となつた動労「本部」革マルを一ときも早く打倒・一掃をかちとることを全労働者の一致した教訓点として前進しようではありませんか。